



様式第4号（第7条関係）

令和 4年 11月 14日

東かがわ市議会議長
井上 弘志 様

東かがわ市議会議員
(会派)・個人・その他)
氏名 渡邊 堅次

行政視察等報告書

1	日時	令和 4年 10月 31日 ～ 令和 4年 11月 2日	
2	参加者	朝川弘規・田中久司・渡邊堅次・小松千樹	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		マイレポはんだの概要と災害時における活用について	愛知県半田市役所
		市設置型浄化槽事業 PFI について	大阪府富田林市役所
		VR 安土城高精度型システムの活用について	滋賀県近江八幡市役所
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照 (感想・今後の取り組み等)	
6	費用	86,400円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

令和 4 年度 令和会等 行政視察報告書

1 日目 愛知県半田市 令和 4 年 10 月 31 日(月)

報告者 渡邊 堅次

【調査事項】「マイレポはんだ」について

【視察目的】

「マイレポはんだ」は市民目線だからこそ分かる地域の問題点などをスマートフォンを活用して道路の陥没や施設の破損などの写真を直接行政側に投稿できる事業で本市での運用の可能性を検証することを目的とした。

【整備事業の概要】

「マイレポはんだ」とは、スマートフォンを活用して、道路の陥没や施設の破損など、身近な問題を手軽に解決する半田市の先進的な取り組みの名称である。スマートフォンの無料アプリ(FixMyStreeJapan)を活用して、地域の課題や問題の解決に取り組んでいる。

市民が地域の問題点を発見した場合、アプリケーションをダウンロードしたスマートフォンで写真を撮影して、ワンクリックで行政側に投稿することができる。行政側に写真と地図が自動的に届くことで、現場確認をしなくても対処できるケースもあり、行政側の負担も軽減できる。平成 26 年(2014 年)に導入し、令和 4 年 3 月 31 日時点で累計 499 名の投稿があった。

【所感・課題】

「マイレポはんだ」は単に地域の問題点を行政に知らせることだけでなく、市民と行政が手を取り合って、住みよいまちを作り上げるといった基盤整備の可能性があらうと思える。道路の陥没や防犯灯などの玉切れだけでなく、ソフトの面での市政の課題や問題点の提案ツールとしても活用できるように考えられる。費用も初期費用は特になく、スマートフォンの GPS と地図を活用する民間の有料アプリを使用しており、その金額は半田市の場合月額 75,000 円(税抜)だそうで、費用も少額であることからすぐにでも本市で導入すべきである。

2 日目 大阪府富田林市 令和 4 年 11 月 1 日(火)

報告者 渡邊 堅次

【調査事項】市設置型浄化槽事業(PFI)について

【視察目的】

本市は、公共下水道事業や農業集落排水事業を進めているが、人口減少が想定以上に進んでいることから空き家等が増え、加入率が悪く採算性が徐々に取れなくなっている。特に、農業集落排水事業は施設老朽化が進んでいることから、今後は PFI を利用した市設置型単独合併処理に切り替える方が良いのではないかとこの考え方も出ていることからの視察である。

【PEI 方式導入の概要】

大阪府が「生活排水を 100%適正処理する」という目標を掲げ、平成 15 年に大阪府生活排水処理実施計画が策定されたことにより、翌年には、「新富田林市生活排水対策基本計画」を策定し、水洗化が大幅に遅れる地域を対象に下水道全体計画区域を外し浄化槽区域に設定し、平成 17 年度に PFI 方式による浄化槽整備推進事業を実施することを公表している。

富田林市浄化槽整備推進事業は、市の責任で処理区域内に設置された浄化槽の保守管理を 10 ヶ年の事業期間で行い、使用料金も下水道と同じ料金体系としている。事業方式は、民間資本金等の活用による PFI 方式とし、公募型総合評価一般競争入札で選定された事業者は、10 年間処理区域において浄化槽の設置及び保守点検を実施している。また 11 年以降は別の委託事業になる。

PFI 方式での浄化槽管理に対し住民からは、浄化槽整備区域の一括管理により安定した浄化槽の放流水質を保つことが出来たため、水路がきれいになったとの声を聞いている。ただし、区域を拡大して実施した第二期事業では事業開始前から一部の住民による反対運動があり、訴訟を提起されている。

PFI 方式での採算性は従来の方で行う場合より収益は高いが、浄化槽のみの採算は取れていない。市全体の汚水処理という考えで下水道事業と一体で採算性は考えているようである。

PFI 方式により浄化槽の手続きにおける市の業務量は従来方式と比べ減少し、自治体の負担を軽減するだけでなく、排水設備に掛かる個人負担も軽減しているとのことである。事業者が浄化槽設置の営業活動を進めることにより、予定より早く設置が進み目標の 450 基を達成している。

【所感・課題】

本市においても近い将来 PFI 方式による浄化槽整備事業を考える時がくると思うが、しっかりとした検証が必要と感じた。下水道管理課課長の説明には意欲と自信があふれていたのには感心した。

3日目 滋賀県近江八幡市 令和4年11月2日(水)

報告者 渡邊堅次

【調査事項】 VR 安土城高精度型システムの活用について

【視察目的】

本市には2017年に日本城郭協会により続日本100名城に選定され、また2020年に国史跡に指定された引田城があり、最近多くの市外の方が引田城を訪れている。そのようなことから、リアルに引田城城山を楽しんでもらうためにVR制作の予算化をしたことがあったが、維持管理費や効果を検証しないままに進めていたこともあり、事業化にいたっていない。そこで、織田信長が築城した世界的にも有名な安土城のVR安土城高精度型システムの活用についての調査のための視察である。

【VR 安土城高精度型システム導入の概要】

近江八幡市は、平成22年に旧近江八幡市と旧安土町とが合併して誕生している。当時の観光の状況は旧近江八幡市には八幡山城や八幡堀(伝統的建造物群)があったが、旧安土町には安土城跡しかなく、観光客数も大きな開きがあった。安土城を復元しようとしても、国の特別史跡となっているため正確な図面が無くては復元することはできず、築城費用も莫大な費用が掛かることから現実的には無理であった。そこで、全世界に知られていた安土城をバーチャルの中で再現し、市の観光振興に役立てようと「VR安土城プロジェクト」がスタートしている。

VRシステム導入時の補助金等の活用は特になく、初期費用として約5,800万円掛かっている。またVR制作には各大学やVR制作会社などが大きく協力している。VRシステム活用による効果は、メディア等の活用による広域的な情報発信ができ、地域の宝を身近に感じることができる。課題としては、飽きられないような活用の検討が必要であり、定期的に更新するには費用が掛かり、毎年の保守運営費も必要になる。VR効果の検証は難しく施設来訪者の増減だけでは、効果は図れないようである。

【所感・課題】

今回の研修では、VR安土城高精度型システムは補修中で体験することは残念ながらできなかったが、VR高精度システムを活用した当時の安土城を再現した映像を見ることはできた。バーチャル作成のためには、正確に復元することが重要であり基本で、そのためには図面や資料が無ければいけないようである。本市の引田城には資料が無く、発掘調査による建設物の位置関係の想像図だけであることからバーチャル制作は難しいと感じた。また、製作費や維持管理費に見合う観光振興による経済効果は見込めないとも感じた。近江八幡市は歴史的な伝統的建造物群また世界的にも有名な織田信長が築城した安土城があることから保存や復元またバーチャルなどで世界に発信することの義務がある自治体のようにも感じた。